

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 31 号	2004年2月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	-------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 2月1日（日）ビオトープの今後についての会議の後、椎茸ばた木の整備、水浄化のための木炭の残りを配置しました。
- 2月7日（土）里山自然観察隊の計画について会議をし、次の日のパワー祭の準備のため、展示用のパネルをシルバーふれあいセンターへ運搬し、取り付けました。
- 2月8日（日）第三回宇部市民パワー祭にパネル展示。西原、原田、田村、大村、松本、美濃和会員で見学者の対応をしました。
- 2月21日（土）作業 湿地帯の増殖植物の除去、外来種木の除去、木材運搬

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者
現在予定がありません。

行事

- 2月28日（土）子どもエコクラブ活動発表会、サポータ養成講座 参加10名
- 3月7日（第一日曜日）作業
- 3月20日又は21日 20日は車地地区の道普請があり、会員の参加で激減のため協議中

3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

今年の春を待つ草花のかたち・・・ロゼット

ようやく春めいた日が続くようになり、草はらの緑も濃くなってきました。今回は、ロゼットと呼ばれる形で春を待つ草花をご紹介します。ロゼットというのは、バラ（ローズ）の花のようにという形容詞で、地面に張りついた葉のかたちが、バラの花弁が重なり合うようすに似ていることから名づけられました。例えばタンポポを思い浮かべてもらえば良いでしょう。農耕地や路傍のように、良く草刈りされて背の高い植物がない場所では、このようなロゼットで冬を過ごす種類の草がたくさんあります。

そのような場所では、地面にへばりついたようなかたちでも太陽の光を受け取ることができます。それに、冬でも日が良く当たっている日中は、葉の温度がある程度上がるので光合成を効率良く行なうことができます。また、夜は気温が下がるので植物の呼吸量は気温が高い時期に比べると低いので、このようなロゼット葉の純生産量（光合成量 - 呼吸量）はかなり高いことが明らかになっています。

タンポポは一生涯をロゼット葉のまま過ごす草ですが、冬の間だけロゼットのかたちをしていて、春になると長い茎を伸ばして立ち上がる草も多いのです。他の草に負けないようにいち早く成長するための養分を冬の間蓄えるのがロゼットの役割といってもよいでしょう。今回ご紹介する、スイバ、オニノゲシ、オオアレチノギクなどはその仲間です。ご存じのセイタカアワダチソウも、冬はロゼット葉で過ごしますが、ビオトープでは見つかるとうすぐ引きぬかれてしまうのでほとんどありません。ビオトープではこの絵の3種が特に目だっています。

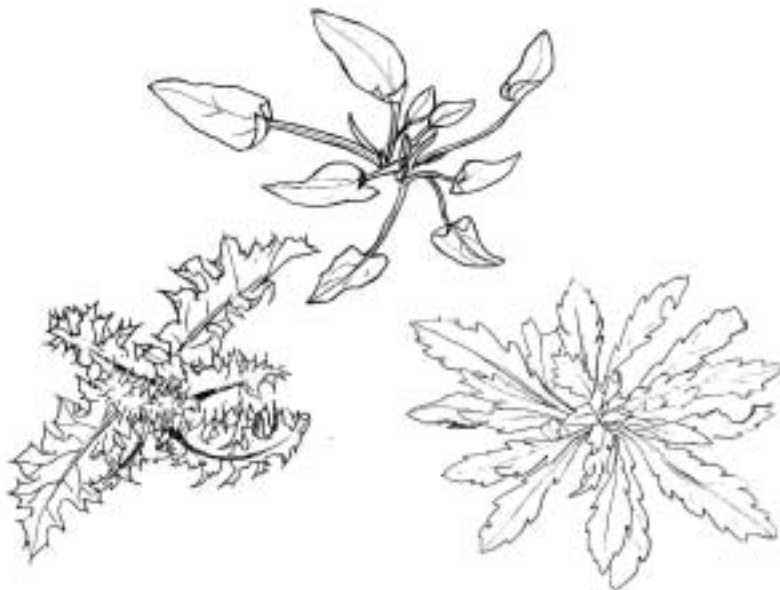
スイバのロゼットは紅色をしているのですぐわかります。葉のかたちから連想されるようにハウレンソウと同じタデ科の植物です。鞣酸を含んでいるので噛むとすっぱいことからこの名前が付けました。同じく噛むと酸っぱいスカンポ（イタドリ）もこの仲間です。

オニノゲシはヨーロッパ原産の帰化植物で、道ばたなどに良く見られる2年草です。在来種のノゲシとは、葉が厚く光沢があり、刺を触ると痛いことから見分けられます。

オオアレチノギクは南アメリカ原産の越年草で、鉄道草と別名のあるヒメムカシヨモギと良く似ています。葉の鋸歯の切れこみ方、毛が多いことからオオアレチノギクであると判断しました。

実のところ、花も実もないロゼットから種類を同定するのはけっこう難しく、私も100%自信を持つ

て判断しているわけではありません。成長して花をつけるまでの楽しみとしておきましょう。



オニノゲシ（キク科） スイバ（タデ科） オオアレチノギク（キク科）

4. ピオトープ関連（連載ピオトープ近辺の案内）事務局 原田満洲夫

車地八景のその6（荒滝の暮雪）

車地から北方向、現在の厚東川ダムの西側に吉部の荒滝山の頂上付近を見ることが出来る。立春が過ぎる頃になると荒滝山の残雪が夕日に照らされて美しく眺められる。近年地球温暖化により雪の降る量が少なく残雪とは程遠くになっているが1月29日は久しぶりの大雪が降って残雪に期待したのであるが当日は降雪のため眺められず、30日は忘れていて31日は残念ながら残雪は解けて見る事が出来なかった。大正末から昭和初期にかけては毎年かなりの雪が降り2月から3月にかけては毎日眺められたのではないだろうか。地球温暖化が我々の故郷を次第次第に蝕んでいるのではと考えさせられます。

5. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

1月20日 蓮田でアカガエル一匹を見つけました。水中を泳いでいましたが寒いゆっくりした動作で潜りました。例年であれば卵を産んでいるのでよく観察すると湿地ゾーンに13個のかたまりを発見しました。卵の黒の部分がかかなり大きくなっているからおたまじゃくしになるのも1週間後くらいかも……

例年蓮田にも産んでいたが今年は湿地帯だけでまだありません。水を浅くしていたためかもしれません。最近ハスの盗掘がありますので17日に水位を高くしたので、まもなく産卵することと期待しています

林 弘之

1月24日 昨日の朝、水車は宝石をちりばめたように輝き、水車のシャンデリアのように美しかった。朝日を浴び形容しがたい氷柱が大小様々で今年最長は2m20cm（昨年は1m62cm）近所の人々が3人来られしきりに感嘆しておられた。

写真にとってプリントしてみたがその美しさは到底写し出されなかったのが残念。今日もため池の氷は一日中解けず。今年の最低気温は22日のマイナス7.5。

林 弘之

2月4日 今朝湿地ゾーンの中央付近で赤ガエルのオタマジャクシを見つけました。気温2度のためか全然動かず、じっと寒さに耐えている様子。見た目には黒い色のごみのようで中々見つけにくい。棒で突つくと頭部が丸くなり尾が細長くなるので、やっとオタマジャクシの形になり見分けがつかず。これからは沢山ある卵から次々寒さに震えながら新しいオタマジャクシが誕生するでしょう。

林 弘之

2月8日 厚南区旭が丘 歩こう会 8名

田舎道を久しぶりに歩き楽しい一日でした

2月12日 オシドリを思ってきましたが遅かったようです 竹林ボランティア 麻野

6、会よりの連絡事項

- 1) 「里山自然観察隊」を募集しています。何件かは入隊、問い合わせがありましたはまだまだ席は空いています。会員皆様の広報活動又は口コミで隊員、会員の募集をお願いします。
前号でも連絡しましたが会の行事（田植、稲刈り、餅つき、蕎麦植え、蕎麦うち、蓮堀）の一般募集をやめ、変わる会員及び隊員による実施を主体としたため、幅広く体験いただきたく隊員として又会員を募集するものです。
- 2) 新規会員のご紹介
後藤益滋会員 山口市在住 0839-28-1334 メールアドレスあり
梶井英一会員 宇部市南浜町在住 21-3045 同上
上山智子会員 宇部市西琴芝在住 36-4829
皆様宜しくお願いいたします
- 3) 宇部市環境パートナーシップ会議について
一昨年この会議の一員となって助成金にて『昭和山遊ロード二俣瀬』を立ち上げましたが当会は遊ロードの案内看板製作、通路の整備、木樹の名札賭け、生息生物看板製作等活動して参っています。しかしながらパートナーシップ会議としての横の連絡が乏しかったのですが、今後は連絡、協力を密にするため2月12日に協議会が開かれました。会長（今井）、副会長（藤田）、監事（潮村）はそのまま留任です。あやふやであった事務局は持ち回りで今年は当会事務局がお受けしました。

7. 編集後記

今年もまた、里山自然観察隊の募集の時期がやってきた。昨年の結果については、保護者にアンケートをお願いしたが、予想どおり植物の反応がいまいちで、昆虫や魚の観察を増やして欲しいとあった。考慮しよう、しかしせっかく里山とつくのだから、今年は昨年以上に里山の暮らしにもっと触れて欲しいと思う。昨年は、餅つきやソバ打ちにも挑戦してもらったが、今年は四月に食べられる野草探しをする予定である。竹を切ったの竹細工や稲刈りの藁での藁細工など、いろいろとアイデアもでている。あとは如何にして子どもたちの興味を引き出すかである。工夫してみよう。さあ、今年はどんな元気な子どもたちが集まってくれるだろうか、楽しみである。
(西原 一誠 記)